

大学から地域の元気を応援する取組 ～地域連携の種まき実践例～

三戸 里美 (広島大学 学術・社会連携室地域連携部門 主査)

講師略歴

平成4年4月、広島大学事務職員に採用。広報部で大学ウェブサイトシステム構築等を行い、令和2年度から現職。現在、地域活性化に向けた大学と自治体、地域団体、企業等との連携活動、自治体と連携した国際交流拠点施設（交流、イノベーション、居住機能）の整備、防災・減災研究センターにおける社会連携活動、COC後継事業における学生活動などを担当。

プログラム概要

コロナ禍、大規模自然災害、デジタル化、環境問題、都市への集中など多くの課題に直面している今、自ら「問い」を見つけ、多様な他者とともに広い視野から自分の力で解決の道を探り続ける力を身に着けることが求められています。

そのため、大学においてもキャンパスを飛び出し、地域や社会の中に教育・研究フィールドを求める学生・教員が増えています。そうした中、広島大学では令和元年度に、地域が元気を取り戻すのを支援する地域連携事業「地域の元気応援プロジェクト」をスタートしました。この事業では、自分たちだけでは解決できない課題を持つ地域の方と学生・教員との出会いの場を作り、3者がチームを作って地域をフィールドに地域課題に取り組むものです。本プログラムでは、地域と学生・教員のつながりの拡充や、企画、コミュニケーションなど様々な経験を通じた学生の成長、地域連携のあり方を皆さんと考えてみたいと思います。

準備物・事前課題

ご自身の大学で、興味深いあるいは特徴的な地域連携活動を調べてください。グループワークで簡単に紹介していただきます。

主な受講対象者

広く学生・教員・地域との連携を考えている若手職員、一般職員の方を対象としています。

到達目標

1. 職員が地域連携活動を通じて学生・教員とのネットワークを広げる事例について説明できる。
2. 地域連携事業の大学・地域双方のメリットについて理解する。
3. 地方創生における大学の役割について理解する。

日時

8月25日(水)12時30分～14時30分